

「小泉純一郎氏講演会(2019.2.16)」～その表話と裏話～
 緑と水の都・山陰で語る「日本の歩むべき道」
 ～原発ゼロ・自然エネルギー活用の未来～



小泉講演会、聴かれてみてどうだったでしょうか？
 小泉さんの原発必要から原発ゼロに舵を切られた話に、原発の抱えるもろもろの問題などのことはもちろん、講演ラスト盛り上がりでの「老いて学べば死して朽ちず」の話に至るまで、たくみな小泉節で聴かせて貰えましたね。

この講演会の場での熱い思いの共感を持ち続けるのももちろんですが、小泉さんの訴えられた原発ゼロへ向けて、若者や中高年ももちろんのこと、この「老いた」人たちも元気を貰って、動いていきたいですね。

私（安達進：県民連絡会事務局員展・松江地域連絡会事務局長）は、小泉講演会を開催するにあたっての始まりから終わりまでに関わっていましたので、もう講演会から1年も経ちましたが、その表の話と裏の話、とくに講演会当日の会場だけでは知りえない話を、物語風を書いてみました。ご一読を。

1. そもそものはじまり

それは、前年2018年5月に県民連絡会に1本の電話が入ったことから始まった。

これは、「首長会議（脱原発をめざす首長会議）」の事務局長である佐藤和雄さん（元・小金井市長）から、7月に松江市にて学習会「再エネを主力電源に 周辺自治体に事前了解権を」を開催するが、その開催協力依頼と地元報告講演依頼。

学習会が終わった後の懇親会の場・・・首長会議の世話人である三上元さん（元・静岡県湖西市市長、現湖西市議）に「小泉さん呼んで講演会したいけどなんとかならんでしょうか」⇒「原自連（原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟）で幹事しているし、小泉さんも顧問だし、毎月一回、幹事会あって会うので聞いてみましょう、次は来月8月に。但し聴衆を最低1000人は集められんと。出来ますか？」⇒「（自信なかったけど）集めます、お願いします」と即依頼。

8月中旬に連絡あって、幹事会で隣席の小泉さんに話してみたら一つ返事で「ヨッシャ」とオッケーとのこと。⇒後は事務的な相談に移り、原自連事務局（事務局次長の木村結さん等）と。

2. 講演会開催に向けて始動

地元で参加者1000人となると、島根県民会館しかない。年内はさすがに準備期間が足りないので、年明けで。さっそく土日で空きを確認し、候補日を3つほど提案。⇒やきもきして待っていたら、10月になってやっと回答有って2月16日が良いとのこと。⇒11月に「小泉純一郎氏講演会山陰実行委員会」を組織して具体的に始動（最終的に共同代表・呼びかけ人以外に34団体・34個人参加、松江地域連絡会も団体として参加し活動）。

それにしても、実行委員会事務局（県民連絡会事務局）の誰もこういう大規模講演会を自ら開催したことがない。原発反対決起集会などのいわば内輪集会の経験はあったとしても一般の人を集めて、かつ有料の大規模講演会となると経験ゼロ。手探りで計画。

それでもなんだかんだと進め、チケット発売も県民会館大ホール定員の1500枚（+立ち見200枚）で売り出したところ、実行委員会関係団体などを中心に、それ以上の希望者が増えに増え・・・。なんとか大ホールでなくても見て貰えるようにライブ中継で観れる追加会場の用意の模索。それも第2会場だけでもならず第3会場も用意することに。大ホール映像・音声を第2・第3会場に流す技術的な課題もクリアする必要があり、この辺りは県民会館の舞台技術スタッフの支援受けつつ。

ちなみに、実行委員会共同代表の飯塚大幸さん（一畑薬師管長）の話によると、以前に小泉さんはお忍びで一畑薬師に参拝されたことがあり、一緒に話されていたそうで、写真

も拝見。また、原自連の事務局次長の木村さんもかって山陰を旅行したときに同じく一畑薬師を参拝されたとのこと。

縁ですね～。縁で言うと、7月の首長会議との縁、三上さんとの縁、三上さんと原自連との縁、三上さんから小泉さんにつながる縁。舞台が出雲だからではないでしょうが、すごく縁を感じましたね。こういう縁、これからも大事にしたいですね。

3. 開催に向けてのてんやわんや

山陰の2月って雪などの悪天候になることも多々。東京からの飛行機飛ばなかったらどうする？前日に松江入りして貰えれば安心だけど・・・、でも聞いてみたら小泉さんは基本、日帰りなんだと。

前日を聞いてみたら京都らしくて、講演会当日午前には新幹線・やくも移動も考えたけど、やくもの揺れで体調悪くて講演出来なかったら大変、また、当日、京都から伊丹まで車移動して飛行機では？、などいろいろ案を考えたけど、結局、一度、東京（横須賀）に戻り、当日の朝の飛行機ということに。（こういうことやってて思ったが、東京の人たちって京都と松江って近いと思っておられる節がある、困ったものだ!）

でも、当日、悪天候で松江に来れないとか、大幅に遅れたらどうするの？、来て貰った2000人の人に帰って貰う？、チケット代返金するとはいいとしても（いや会場代などかかっているからチケット代寄付して貰う？）、遠方から来られた人もいるのにそりゃ申し訳ない。

う～ん、そこで私は考えました。小泉さん、日本全国で講演会をされている。この録画映像があると思うので、いざとなった時にはこれを会場で流そう。これだけでは面白くない、参加者に納得して貰えない。小泉さんと親しい三上さんに前日に松江入りしておいて貰って、小泉さんがダメな時、ピンチヒッターで講演して貰おう、と講演会10日ほど前の直前でしたが、三上さんに早速連絡。スケジュール的にも大丈夫で来て貰えることに。これで、緊急時シナリオの骨格ができました。ほっとしましたね。

4. 開催間際のドタバタ

開催日の2週間前にチケット完売状況になったが、事務局にはチケット何とかならんか、立ち見でもいい、通路に座ってでもいい、大ホール前ロビーでモニターでもいい、というように熱い問い合わせが、松江周辺だけでなく鳥根県西部、鳥取県始めいろいろなところから殺到。私が事務所宛て電話を携帯で受けていたが、一日に10～15本くらいはかかってきていたでしょうか。

当初、他県での講演会事例から、ある程度希望者は多いだろうと思っていたが、ここまで多いとは思わず。チケット完売につき、電話では「チケット完売につき、誠に申し訳ありません、講演会後に、録画映像をインターネットなどで観れるようにする予定なのでこちらでお願いします」など、またこの中にはクレームも混じっていて、ひたすら「ごめんなさい」を繰り返す。こんな経験、人生、60年以上生きてきたけど、はじめて。人間、鍛えられますね～（笑）

緊急的に、実行委員会関係者（団体関係者・個人）には、最初から第2・第3会場に入って貰うよう事前依頼も。

5. 講演会へ突入

飛行機の遅れもあり、小泉さんご一行6人の会場到着から講演開始まで約30分間ほどのみ、また、トンボ帰りで飛行機の出発時刻まで余裕なし、講演会全て終了前に会場をお立ち～、会場滞在時間わずか2時間ほどのハラハラ。危なかった、まさに綱渡り状態。開場1時間以上も前から大勢の人が詰めかけ、ロビー付近は混乱気味に。結局、事前受付や予定時間よりもかなり前倒しでの開場。

小泉さんご一行6人が到着。挨拶もそこそこに、いくつかの講演進行確認とネゴ。第2・第3会場でライブ映像鑑賞だった人に申し訳ないので、小泉さんご一行に会場に回って簡単な挨拶して貰うように



到着時に直前依頼、快諾。三上さんには講話中にこのような動きをすることを伝え、これも快諾。そうこうするとすぐに開演時間に。



6. 熱き語りと聴き入り

実行委員会共同代表の飯塚大幸さんの挨拶でスタート。大勢の人に来て貰ったことの感謝と第2・第3会場に回って貰った人へのお詫びも。

元気で熱い、聴衆を引き込む小泉講演。国政の世界の裏話に始まり、昭和から平成が変わるときの話、平成の時代の振り返り、転じてこれまでの原発政策や抱えるもろもろの問題などのことはもちろん、「過ちを改めざる、これを過ちと言う」、「改めること、憚ることなかれ」、講演ラストの盛り上がるの「若くして学べば壮して為す、壮して学べば老いて衰えず、老いて学べば死して朽ちず」、「向上心を持って学ぼう」などの話も良かったですね。

三上さん講話もなかなか良かった。短い持ち時間ではあったが、島根原発3号機を世界5つ目の動かさない原発にしよう、オーストリアの原発のように国民投票で決めよう、島根原発のことは県民投票で決めよう、日本人は過去に学ばない国民なのか？、などなど、こちらも熱く語って頂きました。なお、講話の冒頭で、日の目を見なかった「緊急時シナリオ」を、危機管理が出来ている、こういうのが原発でも大事、と褒めて貰い、私はちょっと嬉しい。

最後に、実行委員会事務局長の保母武彦さん（県民連絡会事務局長）は、今日の小泉さんの話を広め原発ゼロに向けた世論を作ろう、との呼びかけ。また、三上さんの講話を受けて、周辺自治体を含めた地元住民投票へ向けた話。最近、講演会聴いてた一般知人に「あの住民投票の話はどうなってる？」と聞かれ、なんと1年経っても覚えてる！！。ビックリするやら嬉しいやら。



7. 講演会を終えて

小泉さんや三上さんが、原発の抱える本質的な問題や原発ゼロに向けての話を聴衆にわかりやすく語られたことがすごく良かったですね。聴いた人がこれらの話を世間に少しでも広めて貰えるといいですね。また、住民投票なども通して具体的な活動につなげていきましょう。

さらに、この会場での参加者の熱い思いの共有の持続、少しでも多くの人々の原発問題への関心の持続、この時できた実行委員会組織の活用など、今後活かしていきましょう。

なお、実行委員会の運営スタッフの裏方で、講演会をきちんと見れなかった、聴けなかった人も大勢でした。私も当日は舞台袖から見たり、ときおりモニタで垣間見た程度でちゃんと見たのは後日、録画映像で。運営スタッフの皆さん、お疲れ様でした。

◇関連情報

- (1)「小泉純一郎氏講演会山陰」ホームページ（県民連絡会 HP 内）

<http://midori-eneren.com/category/koizumi>

◎講演会の録画映像ネット配信およびDVD提供について（無編集のもの）

インターネット配信中。DVDも提供可能。講演会を聴きそびれた人、もう一度聴きたい人、これらをどうぞ。お知り合いにも声掛けを。活用して鑑賞会を。

- (2) 関連書籍紹介： 小泉純一郎著「原発ゼロ、やればできる」（2018.12.21 太田出版）

<http://www.ohtabooks.com/publish/2018/12/20173346.html>

- (3) 各団体等

① 原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連） <http://genjiren.com/>

② 脱原発をめざす首長会議（首長会議） <http://mayors.npfree.jp/>

◎2018/7/21 学習会「再エネを主力電源に 周辺自治体に事前了解権を」

<http://midori-eneren.com/seminar/detail/762>

③ 自由人 三上元の選択（三上さんのブログ）

<https://pikagen.hamazo.tv/>

以上